

神緑会

Shinryokukai News Letter

一般社団法人 神緑会会報誌
神戸大学医学部医学科同窓会

第15巻 第1号

発行日 2024年3月6日



「春」 神緑会事務局

Contents

祝・ご卒業	3	クラス会便り	18
第17回ホームカミングデー	4	支部会便り	22
令和5年度 大倉山音楽祭	11	編集後記	24
神戸大学医学部白衣授与式	13		

木と生きる幸福

住友林業グループ

スマリンケアライフは、住友林業グループの一員として
より質の高いサービスをより多くの皆様にご提供し、
「安心・安全・快適」な暮らしをサポートしています。



緑豊かな街並みと
周辺環境に恵まれた、神戸市垂水区に立地。

2019年4月撮影



DOMANI ドマーニ 神戸

(一般型特定施設入居者生活介護／入居時自立・要支援・要介護)

 0120-78-6665 (9:00～17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型／介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護) ●居住の権利形態／利用権方式 ●利用料の支払い方式／一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室) ●入居時の要件／入居時自立・要支援・要介護 ●介護保険／兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設 ●介護居室区分／全室個室 ●介護にかかわる職員体制／1.5:1以上
【施設概要】●所在地／神戸市垂水区本多町3丁目1番37号 ●交通／JR「舞子」駅より徒歩15分「舞子高校前」下車 徒歩5分(約370m)・市営地下鉄「学園都市」駅より徒歩8分、「舞子高校前」下車 徒歩3分(約165m) ●構造・規模／鉄骨(一部)鉄筋コンクリート造 地上7階・地下1階の1棟、鉄筋コンクリート造 地上10階の1棟 ●居室数／一般居室195戸、介護居室58室 ●土地建物の権利形態／土地・建物とも自社所有



神戸の中心“三宮”に近く利便性に優れた
神戸市灘区「HAT神戸」に立地。

2021年11月撮影



ELEGANO エレガーノ 摩耶

(一般型特定施設入居者生活介護／入居時自立・要支援・要介護)

 0120-01-4165 (9:00～17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型／介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護) ●居住の権利形態／利用権方式 ●利用料の支払い方式／一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室) ●入居時の要件／入居時自立・要支援・要介護 ●介護保険／兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設 ●介護居室区分／全室個室 ●介護にかかわる職員体制／1.5:1以上
【施設概要】●所在地／神戸市灘区摩耶海岸通1丁目3番10号 ●交通／JR「灘」駅より徒歩13分(約1,030m)・阪神本線「岩屋」駅より徒歩10分(約800m) ●構造・規模／鉄骨・鉄筋コンクリート造 地上14階建(ケアセンター東館5階) ●居室数／一般居室134戸・介護居室96室 ●土地建物の権利形態／土地・建物とも自社所有



六甲の山並みを望む住みよい街。
神戸市東灘区に立地。

2021年3月撮影



ELEGANO エレガーノ 甲南

(一般型特定施設入居者生活介護／入居時自立・要支援・要介護)

 0120-65-8208 (9:00～17:00)

【神戸市有料老人ホーム設置運営指導指針による表示】●類型／介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護) ●居住の権利形態／利用権方式 ●利用料の支払い方式／一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室) ●入居時の要件／入居時自立・要支援・要介護 ●介護保険／兵庫県指定介護保険特定施設 兵庫県指定介護予防特定施設 ●介護居室区分／全室個室 ●介護にかかわる職員体制／1.5:1以上
【施設概要】●所在地／神戸市東灘区本山町3丁目3番1号 ●交通／阪急神戸線「岡本」駅より徒歩15分(約1,200m)・JR神戸線「摂津本山」駅より徒歩13分(約1,000m)・阪神本線「青木」駅より徒歩9分(約650m) ●構造・規模／鉄筋コンクリート造 地上14階建(ケアセンター地上6階) ●居室数／一般居室105戸・介護居室101室 ●土地建物の権利形態／土地は普通借地、建物は自社所有



関西屈指の人気エリア、西宮北口が生活圏。

2021年7月撮影



ELEGANO エレガーノ 西宮

(入居時自立・要支援・要介護)

 0800-100-2438 (9:00～17:00)

【厚生労働省 有料老人ホーム設置運営標準指導指針による表示】●類型／サービス付き高齢者向け住宅(住宅型有料老人ホーム) ●居住の権利形態／利用権方式 ●利用料の支払い方式／一部前払い・一部月払い方式(一般居室)・選択方式(介護居室) ●入居時の要件／入居時自立・要支援・要介護 ●介護保険／在宅サービス利用可 ●介護保険／在宅サービス利用可 ●介護居室区分／全室個室
【施設概要】●所在地／西宮市津門大塚町11番58号 ●交通／阪急今津線「阪神国道」駅より徒歩5分(約340m)・JR神戸線「西宮」駅から徒歩13分(約1,000m)・阪急神戸線「西宮北口」駅より徒歩18分(約1,400m) ●構造・規模／鉄筋コンクリート造 地上14階建2棟、5階建1棟 ●居室数／一般居室219戸・介護居室90戸 ●土地建物の権利形態／土地は普通借地、建物は自社所有

■お問い合わせ・資料請求等は、各フリーコールをご利用ください。

【経営・運営主体】(公社)全国有料老人ホーム協会会員・(一社)全国介護付きホーム協会会員

住友林業(株)
66.7%出資

スマリンケアライフ株式会社

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号(国際健康開発センター3階)

【ホームページ】

<https://www.s-carelife.co.jp>



祝・ご卒業

2022年度 謝恩会実行委員長 **勝本 花衣**（令和5年卒）

令和5年3月24日に学位記授与式が行われ、私たち第56期生はおかげをもちまして卒業の運びとなりました。これもひとえに神緑会の皆様、神戸大学の先生方、すべての関係者の皆様のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

6年前の4月、期待と不安を胸に大倉山のキャンパスへ足を踏み入れたことが昨日のことに思い出されます。卒業するにあたって大学生活を思い返してみますと、入学当初に思い描いた大学生活では決してありませんでした。新型コロナウイルスが猛威を奮い、大学生活のちょうど半分、3年間でコロナ禍での学生生活となりました。臨床実習が始まり、部活動においても幹部としての仕事が始まる、勉学も大学生活もまさにこれからより一層充実させていこうと思っていた矢先での出来事でした。実習を十全に受けることもままならず、全ての部活動は停止し、毎日友人と顔を突き合わすという、今まで当たり前だと思っていた日常が奪われた中での大学生活でした。

しかし、医学生として医療・公衆衛生に対して身をもって学ぶことも多く、貴重な経験であったとも考え

ております。試行錯誤しながらなんとか元の状態に近い生活を営むべく努力したことも、今となってはかけがえのない思い出です。そして、どのような状況下でも先生方が変わらずご指導下さったからこそ、私たちが卒業の日を迎えられたのだと、心より感謝申し上げます。

また、この学生生活を通して、人とのつながりの重要性も身を以て学ぶことができました。1年生から助け合ってきた友人、部活動では些細なことに至るまでお世話になった先輩方、後輩の皆さんはもちろんのこと、どこへ実習に伺っても温かく接して下さった神戸大学のOB・OGの先生方の存在に幾度となく助けられました。

これから神戸大学医学部医学科卒業生として医師生活をスタートさせると思うと、たいへん身が引き締まる思いがしております。今後は神緑会の一員として、この名に恥じぬよう誠心誠意努力し、医業に邁進していきたいと存じておりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



第17回ホームカミングデイ

ご挨拶

一般社団法人 神緑会会長 **山崎 峰夫**（昭和56年卒）



神緑会会長の山崎峰夫でございます。ひとことご挨拶させていただきます。

本日で参加の皆様におかれましては、今年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したものの、感染対策に日々ご苦心の中、

ますますご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、神緑会会員のみなさまにおかれましては、日頃より神戸大学医学部医学科・大学院医学研究科の教育・研究に多大なご理解とご支援を賜っておりますことに、あらためて深く感謝申し上げます。

ホームカミングデイは大学の公式行事で、午前中は本部主催の全学部共通行事が六甲台キャンパスで開かれ、午後は各学部独自の企画がそれぞれの同窓会の協力のもとで開催されてきました。本年は第17回となります。

ただ、医学部企画については、コロナ禍のため、3年前は中止、一昨年度はオンデマンド、昨年はオンライン方式での開催とさせていただきました。今年度もコロナ対策の状況に配慮しながら4年ぶりに対面とオンラインを用いたハイブリッド形式での開催となりました。

こうして、皆様と楠キャンパスで一堂に会し、対面で会話を交わすことは、なにより喜びに堪えません。

一方、ご参加が難しい遠隔地にお住まいの会員の方々にもリモートでご参加いただきやすいとのメリットもあります。引き続き、より多くの同窓の方々にご参加いただきやすい開催のあり方を考えていく所存です。

さて、神緑会についてご存じの方も多いとは思いますが、少し紹介させていただきます。神緑会は神戸大学医学部医学科およびその前身校卒業生の同窓会組織ですが、一般社団法人として、同窓生同士の交流に留まらず、疾病に関する研究調査や、医学知識の啓発・

普及などの社会貢献、神戸大学医学部はじめ教育研究機関や医療機関発展の支援を行う事を活動目的としております。

具体的な活動内容は、ホームカミングデイの大学との共同開催、法人として総会の開催、学術誌やニュースレターの発行、ホームページの管理、会員名簿発行のほか、各種研究助成、学会開催助成、学生の海外留学や同行教員への財政的支援、学生への白衣授与、学生祭である大倉山祭への財政的支援など多岐にわたっています。

私たちの活動はコロナ禍以前に戻りつつありますが、実行できていない事業が多いことが残念です。今後の同窓会活動については、いわゆるポストコロナとしての社会情勢を見ながら、会員の皆様ならびに教職員・在学生のみなさんにとって魅力があり、つながりの持てる内容としていきたいと考えています。

また、いま述べた活動の他にも、私たちを育てていただいた母校に対して何ができるか、これから母校で育っていく在学生や未来の学生に対して、何を残し、何を創っていけるのかを考えることはとても大切だと考えております。

神緑会に関係いただいている全ての方々におかれましては、ぜひご意見、アイデアをお寄せいただきたく存じます。それらをもとに皆様とともに神緑会を盛り上げ、神戸大学医学研究科の発展にお手伝いできることができれば、と願っています。

ところで、皆様ご承知のように、2021年4月に神緑会会員として初めて昭和59年卒の藤澤正人先生が神戸大学長に就任され、2年半が経ちました。

藤澤先生は、就任以来その卓越した行動力と指導力で神戸大学全体の教育・研究・社会貢献力の増強をめざしておられます。

今年度開設された医学研究科医療創成工学専攻や、神戸未来医療構想、神戸大学国際がん医療研究センター拡充計画などがその一環です。

これらの事業がさらに発展するために学長を応援す

るという意味をこめて、来年3月31日まで募集しております神戸大学創立120周年記念募金になおいっそうのご協力を賜わることをお願いできれば、と考えております。

一方、One Kobeのスローガンの下、神戸大学のブランド力強化をめざし、全卒業生、全学生、全教職員が参加する全学同窓会（校友会）が発足しました。ゼ

ひ神緑会会員の皆様におかれましても校友会にもご参加くださいますようご案内とお願いを申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様のより一層のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

ありがとうございました。

令和5年10月28日



ご挨拶

神戸大学 医学部長 村上 卓道（昭和61年卒）



神戸大学大学院医学研究科長・神戸大学医学部長の村上卓道と申します。皆様におかれましてはますますご清祥のことと拝察申し上げます。日頃より神戸大学大学院医学研究科及び医学部医学科の教育研究活動に

対してご理解とご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、今年5月に5類に移行したものの、医学部附属病院においては引き続き感染対策を緩めずに対応しており、未だ終息が見えない状況にあります。卒業生の皆様におかれましてはそれぞれのお立場で、その対応にご尽力ご苦労されておられることと拝察申し上げます。

ホームカミングデイは、新型コロナウイルス災禍のため、令和2年度は中止、一昨年度はオンデマンド方式で、昨年度はオンラインリモートで開催されましたが、今年は4年ぶりに対面とオンラインのハイブリッドでの開催となり、コロナ禍前の賑わいを取り戻しつつあります。

本学は、明治35（1902）年の神戸高等商業学校設置を起点として、昨年創立120周年を迎え、新たな歴史を歩み始めました。この間、各方面から母校をご支援いただいている卒業生・修了生の皆様には心より御礼申し上げます。

医学部医学科（昭和59年卒業）出身の藤澤正人学長が就任して2年半が経ちましたが、大学のビジョンである「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」をめざし、科学技術の発展を目指し長期的な視

野に立った多様な基礎科学研究創発の促進や社会実装につながる応用科学研究力の強化、博士課程をはじめとする若手研究者の支援、研究環境の整備、産官学連携を基盤にした大学の自律的経営の確立などに邁進しているところでございます。

ここからは医学研究科での最近の取り組みについてご紹介いたします。まず、大学院医学研究科では医療機器開発を主導することができる創造的開発人材の育成を目的とした医療創成工学専攻を令和5（2023）年4月に開設いたしました。令和7（2025）年4月には、医学部に医学と工学を融合させた新学科を設ける準備を進めており、学部から大学院まで一貫教育する体制を整えているところです。

また、大学院医学研究科及び医学部では、その使命を果たすべく、引き続き新型コロナウイルス感染防止に配慮しながら、研究教育活動及び診療活動に取り組んでおります。

研究につきましては、本学が提携企業と協力して開発した国産初の手術支援ロボット『hinotoriTM』をプラットフォームとし、AIや5Gをはじめとした様々な次世代工学技術を応用した付加機能の開発を神戸未来医療構想において実現し、企業ニーズの解決法導出、国内企業の国際競争力の向上に取り組んでいきます。また、神戸大学の伝統であるシグナル伝達教育を展開してきた「シグナル伝達医学研究展開センター」を深化させ、ニューノーマルDX時代に相応しい「メディカルトランスフォーメーション研究センター」を創設しました。難治性がん、精神神経疾患、感染症等の諸疾患の病因・病態の解明、及び診断・治療の標的分子の同定等を目標としています。

教育につきましては、本年6月に文部科学省「質の

高い臨床教育・研究の確保事業」に採択され、ICTの包括的導入による業務最適化に時短女性医療者活用とシミュレーション教育の拡充を組み合わせた次世代の医学部教育・研究体制の確立に積極的に取り組んでいます。また、同じ6月には、大学関係者が使用する食堂、多目的ホール、武道場、体育館、課外活動団体部室等の機能が整備された新しい福利厚生施設を竣工いたしました。在学生の方達が、勉学はもちろんのこと、研究、部活動など有意義な学生生活を送ることができるよう、引き続き最善を尽くして参ります。

附属病院におきましては、院内の感染拡大防止対策を講じながら、新型コロナウイルス感染症に対する医療と高度先端医療の提供を両立するという地域医療の

「最後の砦」としての役割を果たすとともに、ワクチンの大規模接種における医師、看護師等の派遣に協力する等、病院職員が一丸となって地域医療に貢献しています。

また、新型コロナウイルス感染症に対する医療と高度先端医療の両者を同時に実施して行かねばならないという大変困難な状況を、職員一同一丸となって乗り越えていく所存であります。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

令和5年10月28日



ご挨拶



ただいまご紹介いただきました、神戸大学医学部医学科長の勝二と申します。一言ご挨拶申し上げます。

本日は、第17回神戸大学ホームカミングデイ（医学部医学科企画）の講演会を開催させていただきまし

たが、会場にお越しの皆様、またオンラインでご参加の皆様におかれましては、お忙しい中ご参加いただき、おかげさまで無事に進んでおりますこと、まずは、御礼申し上げたいと思います。

今回のホームカミングデイは、新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和2年度は中止、一昨年はオンライン方式で、昨年はオンラインでの開催となり、4年ぶりに対面で開催することができました。

ホームカミングデイは母校のキャンパスで懐かしい同窓生の方と旧交を温めるとともに、教職員、学生、名誉教授との交流も深めていただきながら、「神戸大学の今」に触れ、大学への理解を一層深めていただく場であります。今年は6月に今我々がいるこの福利厚生施設が完成し、こうして一堂に会し、対面で会話して交流を図ることができ、大変嬉しく思います。

さて、今回は講演会として、医学部の期待の若手研究者として、辻本龍様、メディカルトランスフォー

医学部医学科長 **勝二 郁夫**（平成2年卒）

メーション研究センター（CMX）センター長の内匠先生、医療創成工学専攻長の向井先生にそれぞれご講演を賜りましたが、皆様、どういふご感想をお持ちになったでしょうか。

医学研究科では、卓越した業績を挙げた若手研究者が、将来本学の研究リーダーとして活躍することを期待し、また若手研究者らの活性化を図るため、その研究結果・積み重ねに対して表彰を行う「優秀若手研究者賞」を毎年度実施しております。神戸大学では今後も若手研究者育成支援に積極的に取り組んでいく所存です。

今回のホームカミングデイが、卒業生や教職員らとの旧交を温め合うとともに、母校・神戸大学とのつながりの大切さを強調できる場となれば、私どもこのホームカミングデイを企画した者として望外の喜びです。

冒頭の医学部長からの説明にもありましたとおり、本学は、創立120周年の節目を迎え、今後、知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点として、科学技術の発展を目指し長期的な視野に立った多様な基礎科学研究創発の促進や社会実装につながる応用科学研究力の強化、博士課程をはじめとする若手研究者の支援、研究環境の整備、産官学連携を基盤にした大学の自律的経営の確立などに全力で取り組んで参る所存ですので、卒業生の皆様におかれましては、引き続きご支援のほどよろしく願いいたします。

最後に、本日、御登壇いただきました辻本先生、内匠先生、向井先生、また開催にあたって御尽力いただいた関係者の皆様方、そして本日会場並びにオンラインを通じてご参加いただきました皆様に心から感謝を申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます

と思います。このあと懇親会がございますので、お時間の許す方はご参加いただければと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

令和5年10月28日

第17回神戸大学ホームカミングデイ

2023年10月28日

第17回神戸大学ホームカミングデイ（医学部医学科）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に配慮して、今年6月に完成した福利厚生施設で4年ぶりにキャンパスでの開催とオンラインを使用するハイブリッド形式で開催しました。

【プログラム】

13：30－14：00 受付（福利厚生施設神緑会館記念ホール前）

14：00－14：15 開会の挨拶（医学部長）

14：15－14：30 神緑会会長挨拶

14：30－14：50 講演会① 若手研究者による講演

辻本 龍氏（2022.3 医科学専攻（博士課程）修了・整形外科学分野）

【講演者】辻本 龍氏（2022.3 医科学専攻（博士課程）修了・整形外科学分野）

【講演題目】脊椎椎間板の恒常性維持におけるオートファジーの関与
ー新たな遺伝子治療法の開発を目指してー

14：50－15：30 講演会② メディカルトランスフォーメーション研究センターについて

【講演者】内匠 透教授

（メディカルトランスフォーメーション研究センター長・生理学分野）

【講演題目】CMX：シグナル伝達からこころへ

15：30－15：40 休憩

15：40－16：20 講演会③ 医療創成工学専攻について

【講演者】向井 敏司教授（医療創成工学専攻長）

【講演題目】医学研究科医療創成工学専攻における教育と研究
～医学×工学の融合で推進する医療機器開発～

16：20－17：00 キャンパスツアー／記念集合写真

17：00－18：30 懇親会



講演① 若手研究者による講演
辻本 龍氏



講演② メディカルトランスフォーメーション研究センターについて
内匠 透先生



講演③ 医療創成工学専攻について
向井 敏司 教授



講演の様子



HCD運営委員会委員 中村 誠 (司会)



福利厚生施設 3 階生協食堂にて懇親会の様子



記念撮影

神緑会館記念ホール前ホワイエの展示（ホームカミングデイ当日）

①入口北壁

旧神緑会館について

50周年記念事業として、明治2年建設の神戸病院の復原を目指した。記念事業は、医学部が、神戸税務署に募金申請した（独立行政法人前は、免税でなかった）。神緑会（医学部同窓会）は、8割を医学部への寄付、2割を活動費として活発な活動を行った。2階建てを希望したが、附属病院の玄関の景観を損なうとして、平屋建てとなった。平成6年に活動開始したが、阪神淡路大震災のため、平成13年に完成した。多目的ホール、3つの会議室など、学内の各種会合に有用であった。

②順に掲示板やショウウィンドウに掲示

明治2年神戸病院の建設（下山手8丁目）

「神戸市30年史」にまとめられた全貌。前年に工事開始したが、台風で倒壊し、翌年に完成。土地の提供を受け、購金禄（兵庫県公館保管）に県内地域ごとの寄付簿となっていた。初代兵庫県令、伊藤俊介（後の初代総理大臣伊藤博文）の呼びかけで、多額の寄付を集め、長州藩より、アメリカ人医師Vedderが病院長となった。

③明治20年に建て替え（下山手8丁目）、次いで、33年に現在地（楠町6・7丁目）移転

この間、明治21年に地方税での医師養成が禁止になり、医学校は廃止され、病院のみ兵庫県立病院として存続した。

明治33年に多くの参加者（334名）で落成式が行われた。当初、神戸商業学校との併用から同校が大正12年に火事で移転し、県立病院のみとなった（大正19年、後の県立神戸商科大前身）。なお、この時期の建物については、ほとんど情報がなく、又新（ゆうしん）新聞社での訪問記が残る。神戸市文書館（中央区熊内町）にて保管（神戸新聞社とは別会社）。出入口が、南側から現在の西向き、有馬街道に変更。写真は、山本ゆかり建築士（小野市在住）提供

④川崎寮（大正1年）、内田寮（大正12年）建設、病院本館の建設（昭和5年、鉄筋コンクリート造り）

この間の建物の規模などの詳細は不明。県立病院職員から県立医大教授となられた竹田正次教授、生化学・内分泌内科が、「風雪30年の思い出」の定年退職（その後、兵庫県立加古川病院長）記念文集で詳細を書き残された。現在、国立大で1,2の狭さと言われるが、日赤病院の売却による敷地取得など、当時の病院長等の努力があった。兵庫県からの「嫁入り道具」とされる旧第1病棟、共同研究館を経て、平成13年に現在の第一病棟が完成した。

以上、従来、はっきりしなかった明治33年から昭和5年までの動きを明記

⑤特別陳列棚

スポーツ記念品

- ①テニスプレイヤー 記念ボール
- ②ビッセル神戸、イニエスタ関連記念グッズ
- ③ラグビーワールドカップ、日本開催 記念グッズ
- ④その他、有名人からの提供

⑥昭和19年医学専門学校入学記念写真

- 1) わが母校誕生のころー中村和成（昭和26年卒）
- 2) 小川瑛五郎初代校長とモニュメント

⑦西塚元学長、医学部生化学教授関連

- 1) シスメックス社内展示資料室の紹介
- 2) 御退職記念行事、記念誌

⑧50周年記念事業、神緑会員募金事業者銘板

- 1) 事務棟地下1階エレベーターホール前の銘板の位置移動、もしくは、窓側に移動を要望中
- 2) 記念式典（平成6年9月）

⑨建物の充実

- 1) 旧基礎棟の取り壊しと新棟建設
- 2) 臨床施設の充実
- 3) 動物実験施設の改修と共同研究館の改修
- 4) その他

⑩ WHHL ウサギ開発による社会貢献

以後、昭和19年の医専発足、県立医大（昭和24年）
から国立移管（昭和43年）



①入口北壁



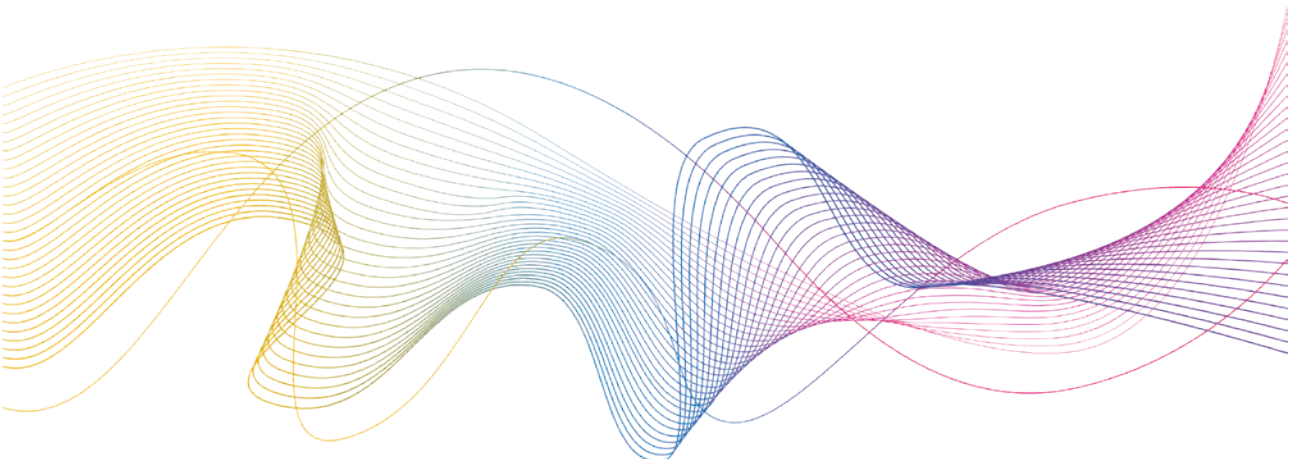
⑤特別陳列棚



②～④展示



⑥～⑩展示



令和5年度 大倉山音楽祭

学生自治会長 **藤井 大空** (医学科4回生)

昨年の11月4日、神戸大学医学部医学科が主催する「大倉山音楽祭」を実施しました。長年続いた「大倉山祭」がコロナ禍により中止となり、大倉山祭の運営方法、さらにその雰囲気を知る学生さえほとんどいなくなっていました。しかし、部分的にでもこの文化を受け継いでいきたい、その思いから5回生の松田凌哉さんを筆頭に、休眠状態だった実行委員会が復活しました。いきなり全てを復活させるのはハードルが高かったため、軽音楽部・ダンス部・クラシック音楽愛好会の3団体によるステージのみを復活させ、それに伴い大倉山音楽祭と名前を変えて、実に4年ぶりに実施する運びとなりました。

4回生はCBTの勉強とも重なり準備はドタバタでしたが、当時運営を担当し既に卒業された先輩方にも連絡を取りながら、また先輩後輩によらず全学年の力を得ながらなんとか開催にこぎ着けました。

ついに本番当日。大倉山公園の噴水広場を借りて行われ、このステージのために昼夜問わず練習を重ねた各団体のパフォーマンスが披露されました。各団体それぞれの単独ステージだけではなく3団体によるコラ

ボステージがあったり、災害・救急医学分野の小谷教授も学生とバンドを結成したりと大いに盛り上がりました。開催前はどれくらいの方が集まってくださるのか不安もありましたが、蓋を開けてみれば学内・学外から多くの観客が押し寄せ、大歓声の中無事終えることができました。ホールやライブ会場などのクローズドな環境でしかパフォーマンスを披露したことのない人も多く、オープンな会場でできたのは新鮮で、一つのイベントを成功裡に収めることができたのはいい経験になった、といった声も上がりました。

来年度からはポストコロナの時代に合わせてアップデートをさせていながら、各団体による出店を出すなど少しでも大倉山祭の雰囲気を復活させていけたらと思っています。

(最後に、神緑会の皆様には今回の大倉山音楽祭実施に際して、多大なるご援助をいただきましたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。)







神戸大学医学部白衣授与式

ご挨拶



本日、出席の4年生の皆様、そして、ご家族の皆様、白衣授与式を無事に迎えたことを心よりお慶び申し上げます。令和5年度より共用試験CBT、OSCEが医師国家試験と並ぶ公的な試験として実施されるよう

になりました。それに伴い合格基準が引き上げられて、より難易度を増しましたが、本日、この場にいらっしゃる皆さんは周到に準備して、無事にCBT、OSCEに合格され、白衣授与式を迎えられました。いよいよ臨床実習生（医学）として病棟での臨床実習に進めることになりました。本日の白衣授与式での皆さんの引き締まった表情を見て、非常に嬉しく思うと共に、これから始まる臨床実習で、より多くのことを学んで頂きたいと願っております。

医学部医学科長 **勝二 郁夫**（平成2年卒）

実際の患者様の病態を学ぶことは、書籍や教材で学ぶのとは違って、遥かに多くの知識が身につく、一生忘れられない記憶として定着することでしょう。教科書や問題集のようにすぐには正答は分からないかもしれませんが、指導医の先生方と一緒に診療に参加することで、診断プロセスや、治療法選択、治療経過について多くのことを学ぶことでしょう。また、重要なのは患者様やご家族に親身になって寄り添う医師としての態度について学んで頂くことです。本日のこの新鮮な気持ちを持ち続けて、有意義な臨床実習を進めて、卒業後の自分の未来像を掴む手がかりを見つけて頂きたいと思います。皆さん方が理想とする医師像により近づくために、本日を新たな区切りの1日として、これからの臨床実習に心新たに臨んで頂きたいと希望しております。本日は誠にありがとうございました。

Student Doctor（医学部医学科4回生）

岡本 大治

「患者さんの気持ちに共感し、寄り添えるような医師になってください」2024年1月9日、白衣授与式で村上医学部長からのご挨拶でこのような言葉を頂きました。思い返せば2020年2月、「患者さんの気持ちに共感し、身体だけでなく心も癒せる医師になりたい」という気持ちで入学試験の面接に臨んでいたことを思い出します。初心を思い出し、あの頃からあっという間に4年という歳月が経ったことに、時の流れの速さを感じずにはられません。神戸大学の学章の入った白衣に袖を通し、遂に臨床実習生（Student Doctor）になれたことを大変喜ばしく思うと共に、身が引き締まる思いを感じました。

ここまで成長出来たのは、ひとえに、これまで私たちを支えてくださった神戸大学の多くの先生方や職員の方々、神緑会の先輩方、そして家族や大学で出会った

大切な全ての方々のおかげがあったからに他なりません。この場を借りて学年を代表し、心より感謝申し上げます。

私たちの学年は入学と新型コロナウイルス感染症の拡大がちょうど重なった年で、入学した4月に初めての緊急事態宣言が出て、大学が休校となり、戸惑いの中から大学生活が始まりました。最初はサークル活動も制限され、人との交流も困難でした。

そのような中、zoomを用いて交流したり、徐々に再開されたサークル活動に参加したり、自ら能動的に行動することがより強く求められるようになったのではないかと感じています。私の好きな言葉に、リクルート創業者である江副浩正氏の「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」という言葉があります。これまでの大学生活を通して、ただ待っていても成長する機会も、楽しむ機会もやって来ない、能動的

に思い立ったら即行動を起こし、機会を創り出すことで充実した大学生活になっていくのだと感じました。

これからの臨床実習では、更に「自ら機会を創り出すことが重要だ」と考えます。自分から進んで多くの知識、技術を得ること。そして患者さんに接する機会を掴み、共感し、寄り添えるようにたくさん経験を積むこと。臨床実習という貴重な機会から能動的にたくさん学び、立派な医師に成長できるよう努力していきたいと強く思いました。

最後になりますが、白衣授与式という素晴らしい式典を設けてくださった神緑会の皆様、先生方、職員の皆様に心より感謝申し上げます。壇上で神緑会の皆様から頂いた白衣を着せて頂いた緊張感、希望そして誇りを忘れず、村上医学部長のお言葉にあったような患

者さんの気持ちに共感し、寄り添えるような立派な医師になれるよう、努力していきます。まだまだ未熟ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。



Student Doctor (医学部医学科 4 回生)

田端 理央奈

令和 6 年 1 月 9 日、私たち 4 回生一同は、CBT や OSCE を無事乗り越え、先生方に持って頂いた白衣の袖に腕を通しました。まだコロナ感染が完全には途絶えていないこの時期に、対面にてこのような素晴らしい式に出席する機会を与えて頂いたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。企画して頂いた先生方、ならびに職員の皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

入学当時からもうはや 4 年近く経つかと思うと、時間経過の早さに驚きを覚えました。そして、無事に 4 年生のこの日を迎える事が出来たことに、大いなる喜びを覚えました。私たちが 1 年生として入学した頃は、ちょうどコロナウイルス蔓延により、行動が制限されていた時期でした。本来なら六甲台キャンパスに通うはずだったものの、授業は全てオンラインとなり、部活動もその年の 11 月まで入部制限も含めた非常に厳しい制限がありました。1 年生の冬あたりまでは、この状況下で、新しい友人関係がこのまま生まれないのではないかと、授業についていけなくなるのではないかと、といった不安に苛まれた毎日を送っていました。そんな中、11 月ごろに始まった部活や、2 年生からの対面授業一部解禁により、私の大学生活は大きく変化しました。部活や対面の実習を通し、一緒に助け合える仲間を得ることが出来、徐々に医師になる為に必要な知識や自覚を身に付けていきました。そして、式当日に壇上に立ったとき、友人達と切磋琢磨し、助け合った

日々があったからこそ、今自分はここに立てているのだと実感しました。私の隣に立って白衣を受け取った友人は、この 3 年と少しの間、私が一番しんどい時にもずっと側にいてくれ支えて続けてくれた、恩人のような人でした。この日にその友人と共に新たな真っ白な白衣に身を包めたことが、本当に嬉しく思いました。

白衣授与式を終えた今、気持ち新たに、日々勉学に励み、将来は患者さん一人一人の病気と心にしっかりと寄り添える医師になりたいと思っています。

最後になりましたが、私たちがこの日を迎える事が出来たのは、先生方、神緑会の皆様、そして医療関係者をはじめとする関係者の皆様のお力添えがあったからこそだと思っています。ありがとうございました。どうぞ、今後ともあたたかい目で見守って頂き、ご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



Student Doctor (医学部医学科4回生)

西川 大生

令和6年1月9日、私たち神戸大学医学部医学科4年生の白衣授与式が行われました。私たちの学年は入学当初から新型コロナウイルスの流行という事態に見舞われ、CBTやOSCEの制度にも変更が加わるなど何かと前例のない状況の中で学生生活を歩んでまいりましたが、そういった困難を乗り越えて白衣授与式の場で一堂に会することができたことを大変嬉しく思っています。

神戸大学に入学してからおよそ4年間、医学を修めることを通して少しずつ私たちがいずれは医師になることの実感が強まってきていました。今回の白衣授与式は私たち4年生の皆にとって将来の姿をこれまでで最も強く実感した日になったのではないかと思います。皆が壇上で一人ずつ白衣を着せていただいている姿を見ると、それぞれが思い思いの様子でその場に立っていることが窺い知れました。しかし、これからへの期待や希望、その一方で緊張や不安など将来に目を向けたときに湧き上がる気持ちを皆、胸に抱いているという点では同じだったようです。

私たちがこれから歩む道は似ているようで全く異なります。多くは将来長きにわたって医師として働くことかと思いますが、それぞれが様々な専門分野へ進み、様々な場所で働いていることでしょう。しかし、この白衣授与式の場で時間と気持ちを共有できたことが私たちを長く結びつける縁となることと思います。

この頃は医療の世界にも変化の高い波が押し寄せてきています。日本国内では世界に例を見ない高齢化の

進展により医療システムを維持する難易度が高まる一方で、デジタル化や世間で言われるところの「働き方改革」、災害や感染症への備えなど課題が山積しています。海外に目を向けると、病院自体が紛争に巻き込まれるなど日本では想像のつかないような状況下で働いている医療者も数多くいます。このような困難な時代の中で共に学んだことは、私たちがこれから医師として働くに当たって大切なものになるのではないかと白衣授与式に出席する中で改めて感じました。

最後になりますが、このような貴重な場をご用意いただいた神戸大学の先生方や職員の方々、神緑会の皆さま、のじぎく会の皆さまをはじめとする全ての方々にこの場をお借りして感謝を申し上げます。これから始まる臨床実習では、日々得られる学びを糧に自らを高めていく所存です。どうか今後とも、まだまだ未熟な私たちにご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



Student Doctor (医学部医学科4回生)

大田 圭一

令和6年1月9日、元旦に発生した能登半島地震の被災地の報道が連日続く中、神戸大学医学部医学科4年生は白衣式を迎えました。昨年、臨床実習開始前の共用試験が公的化され、私たちは初年度の受験生となりました。その合格基準に到達した私たちは、臨床実習において医師の指導および監督下に医行為を行えることが法的に位置づけられた臨床実習生 (Student Doctor) の資格を頂きました。この日を機会に、これから始まる臨床実習に向き合う姿勢などを考えてみたいと思います。

これから私たちが行う実習は、診療「参加」型臨床

実習です。このことが意味することは、私たちは実臨床に深く触れ、実践し、学ぶ資格あるいは権利を与えられた、ということだと思います。卒前に一定の臨床経験を積むことで卒後臨床研修にスムーズに接続できることを考慮すると、私たちにとって非常に有難いことであり、実習にご協力頂ける患者さんにはもちろん、ご指導頂く先生方や病院、大学のスタッフの方々には常に感謝の思いを持ち続けながら実習に臨むことを忘れてはなりません。そして、診療に参画するということは、それだけ責任を負うことになることも忘れてはなりません。これは、社会的責任が生じる環境に入る

のだから背筋を伸ばして臨まないといけない、という外的要因から生じる責任感というよりは、個人的には、医師になる身として、自然と内側から湧いてくるような、矜持ともいえるような気概を持った責任感でありたいと思います。

また、私たちは医療を実践する医療人となった今、多くの患者さんと関わることになります。受診する多くの患者さんに共通していえることは、患者さんは心身の問題のために、自身や家族が毎日の生活に支障をきたし困っているということです。医師には心身の問題に対しての対応を求められるわけですが、一番大事なことは、その患者さんの生活を思い描き、できる限り寄り添った対応をすることではないかと思います。一般的に、患者さんは社会的にみれば少数派です。私たちは、そういった身体的、精神的な困難を抱えている人々の視点を持つとする想像力が必要だと思います。これは、直接患者さんの診療にあたる診療科すべてに当てはまることであり、専門的な技術や知識は必要ありません。私たち臨床実習生（Student Doctor）でも今すぐ実行できる内容であるかと思います。

もう一つ、私が大事だと思うことがあります。普通、患者さんは自宅からアクセスの良い病院を受診します。そして、該当する診療科を標榜する病院にいけば、日本全国標準の、質の高い医療を受けられると思っています。しかし、実際は、提供できる医療の質は病院ごとに様々であり、得意な内容があれば苦手な

内容もあります。多くの患者さんはこのような事情は知りません。さらに、医師は患者さんより圧倒的な医学知識を持っており、インフォームドコンセントの時代とはいえ、言われるがまま医療を受ける患者さんが多いと思われる実状があることです。私たちは、このような患者さんとの情報の非対称性と、医療の施設間格差を認識する必要があります。その上で、その患者さんにとって望ましい選択は何かということを、可能ならば患者さんと共に考え、その決定の手助けをできるような医師でありたいと思います。

結びになりますが、臨床実習開始の節目となる白衣式を催して頂いた関係者の皆様に感謝を申し上げます。また、白衣をご提供頂きました神緑会の皆様には改めまして心より御礼申し上げます。



Student Doctor（医学部医学科4回生）

中 楓子

令和6年1月9日、神戸大学医学部医学科4回生の白衣授与式が行われました。臨床実習生（Student Doctor）となり臨床実習に参加する前に改めて気持ちを引き締めることができました。今までご指導・ご支援いただいた、先生方・職員方、そして神緑会の先輩方に厚く御礼申し上げます。

私たちの入学は、2020年、コロナの流行真っ只中でした。コロナ禍での大学生活は思い描いていたものとは違いましたが、徐々にコロナ禍の制限が解除されていくにつれて、オンライン授業から対面授業へと切り替わっていきました。生来人見知りな性格と臨機応変な対応への苦手意識を持つ私は、その切り替わりに戸惑いながら、授業への取り組み方や学習法を試行錯誤しながら勉強に励む日々でした。結果的にCBTと

OSCEに合格することができ、努力が報われたと感じています。

このたび白衣を教授方から着せていただき、これからの臨床実習に向けて決意を新たにしました。臨床現



場に出るということで、これまで培った知識を生かせるという期待とともに、不安も抱えています。それは医療を必要とする人々との距離が一気に縮まることへの不安です。しかしこれを乗り越えなければ臨床現場で活躍する医師にはなれません。医療の現場では知識の更新とその臨床への適用・応用、臨機応変な対応等が常に求められるはずです。臨床実習は、臨床実習生（Student Doctor）として臨床現場に立ち、今ま

で学習したことの実践が試されると同時に、これまでとはまた違った形で多くのことを学ぶことができる非常に素晴らしい機会です。この機会に、多くの体験を経て将来に生かしたいと思います。

まだまだ道を歩み始めたばかりですが、自身の目指す医師になることができるよう、これからも精進してまいります。引き続きご指導、ご支援のほど宜しくお願い致します。



クラス会便り

三四会

大西 則男 (昭和34年卒)

日 時 令和4年10月29日

場 所 神仙閣

参加人数 12名

赤松、大西、陰下、坂牧、田畑、土佐、中川、花岡 (付き添えの方と)、藤澤、松原、前田 (アイウエオ順)

今回はコロナ禍の事もあり、又次第に体調不良、特

に脚腰の不調を訴えられ欠席される方が多くなりました。参加された方々はみなさん近況報告からもまずはお元気の様子でした。

いつの日か又クラス会を持ちたいですが……。みなさんお元気で!!

(集合写真 割愛)

M 8 会 (昭和44年入学 学籍番号 M 8 ***)

中野 恭一 (昭和51年卒)

日 時 令和5年11月25日 午後6時

会 場 神戸市中央区 神仙閣

文 責 令和5年度 幹事 中野恭一

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が、爆発的な流行を起こした2020年初頭から4年が経過しようとしています。学生運動が激しくなり、東大・東京教育大 (現 筑波大)・日大の入試が行われなかった年に入学した仲間は、殊の外 仲が良くて、政治的な・民

族的な、あるいは宗教的な考えは違っても卒業後ほぼ毎年クラス会を開いて楽しむ「気質」だけは学生時代のままの付き合いを続けてきております。ほぼ毎年クラス会を開く珍しい学年であろうかと思えます (因みにM10の弟のクラスは10年ごとくらいの記念の年に開いていると言っておりました)。

“阪神淡路大震災”の年には神戸での開催を諦め、大阪の友が大阪のホテルで会場を押さえてくれて、飲んで食べて語り合ったものです。2020年秋の会は止む



<写真の説明> 後列左から 河原 啓、八杉 誠、今井直昭、中野恭一、竹内一喜、窪田伸三
前列左から 吉永和正、松本幸平、溝尻素子、中野美和子、増田 潤、羽溪 眞

無く中止でしたが、相変わらず仲良くやっています。話題の変遷も、先輩達のお話の通り卒後すぐの頃の「自分の選んだ診療科の自慢や（生意気にも）苦労話」→「恋愛と結婚」→「子供の誕生」→「親の介護と自らの病気自慢」→「引退や閉院等人生の終活話」…と続きます。ただ寂しいのは、一緒にボールを蹴ったり走ったり、旅行を楽しんだ友が一人、また一人と旅

立って行くことです。黙祷をして暫し思い出に浸りました。

お開き前の話題で、今年の関西は地元のプロ・チームの活躍があり大いに心躍りました。阪神タイガース、オリックスバファローズ、ヴィッセル神戸、“優勝”おめでとう。M 8クラスの面々も、良い年を迎えられそうです。有難うございました。

昭和49年卒同窓会

世話人 西垣 正憲（昭和49年卒）

令和5年10月28日（土）、神戸 ポートピアホテルに於いて、同窓会を開催した。前回、平成30年10月の同窓会で、2年後に開催すると決めていたが、新型コロナウイルス感染症のために延期になり、5年ぶりに実現した。

令和元年11月に、メーリングリストを作り、30名余りが参加して、近況報告などに利用してきた。また、令和4年5月には、Zoomを使つてのオンライン同窓会に、11人の参加があった。

今回の同窓会には、33人の参加があり、久しぶりの再会を喜び、懐かしく楽しい時を過ごした。この5年間に9人の同窓生が逝去されて、黙祷にてご冥福を

祈った。

次回の同窓会は、卒後50年となる令和6年10月に開催されることになっている。

当日の参加者は、

牛尾 大磯 加藤 木戸 栗栖 河野 是成
坂本（長） 関本 高井 高橋 高原
田中 千葉 千原（三） 長瀬 西垣 花城
菱川 平石 藤盛 二村 堀田 前田
正木 丸山 三村 村川 八木 安元 山崎
山本（元） 山本（信）



M11会 (なごみ会)

岩谷 敦子 (昭和53年卒)

令和5年9月10日にS53年卒(M11)同窓会「楠五三会」(なごみ会)が、ホテルオークラ神戸で行われました。出席は69歳から74歳の30名でした。私自身は直近の2回を所用で欠席したため、10年ぶりの同窓会となりました。

幸いというべきか、この10年でさほど大きく変わった方はほとんどなくて、少しの間で顔と名前が一致しました。60歳を過ぎたらそれなりに年は取ってもそう極端には変わらないんだなあと、素直に納得しました。

幹事の先生から、直近の2回の同窓会の近況報告では親御さんの介護の話が多かったと聞きましたが、今回はご自身の病気の話が多かったように思いました。大病をされた方やいくつもの病気を抱えておられる方もいらっしゃいましたが、皆さん同級生に診てもらわれたり、あるいは職場の先輩方や同僚に助けられたりされて、無事に乗り越えて来られていました。大阪に

住み、ふだん同窓生に会うことはめったにない私は、皆さんがお互いを信頼しあって、深い絆でつながっているのを感じ入りました。

近況報告にはもちろん、最先端の研究成果や、定年後の職歴、趣味歴、子供や孫自慢もあり、驚いたり感心したり笑いありで、皆さんの昔と全然変わらない真面目で誠実、温かな人となりに触れて、懐かしく心温まる気持ちになり、まさになごみ会そのもので、出席してよかったと心から思いました。

実は、現役と変わらずバリバリ働いている方が多い中、仕事をどんどん減らして老けていく自分がどこか気恥ずかしくて、今回を最後にしようかと内心考えていましたが、やっぱりまた皆さんにお会いしたい、次回も必ず来たいと思いました。

幹事のみなさま、同窓のみなさま本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



佐藤 靖史 (昭和53年卒)

令和5年9月10日に開催された昭和53年卒業の同窓会に、確か28年振りに出席しました。本年が卒業後36年目の70歳を迎える年度で(実際には来年2月ですが)、特任で延長した東北大学での研究生生活の最後

の年度に当たることもあり、昨年実施させて頂いたクラウドファンディングに支援してもらった同窓の皆さんに直接会ってお礼を述べたいとの思いが一番でした。

私自身、神戸には大学生の6年間と卒業してからの

2年間の計8年しか居らず、それ以外は東京2年、大分10年、ニューヨーク2年、仙台29年と遠く離れていましたので、多くの方々とは本当に久しぶりの再会となりました。懐かしい顔、全然変わらない顔、誰だったかわからない程に時を経た顔、お一人お一人の顔を拝見し、挨拶を聞きながら、皆さんがそれぞれの人生をしっかりと歩んで来られたことが良く分かりました。同窓会って良いもんだなと実感できるひと時でした。

神戸には学会、研究会、班会議などで度々来ていましたが、コロナがあってからは初めてでした。同窓会の前日に神戸に入り、三宮の街を歩いて再開発が進んでいる様子を確認しました。また、全然変わらない高架下にも行って、よく通ったミンミンで餃子とビールも楽しみました。

神戸、良いなあ。カラオケの持ち歌も「そして、神戸」です。また来ます。

小林 研二（昭和53年卒）

6度目の年男を迎えて

大学を卒業し、専攻として消化器外科を目指した。本学ではなく、親爺の関係で大阪の大学の外科医局に入り、臨床・手術・研究と研鑽を重ね、いつの間にか定年を迎えた。さすがに私の外科手技は古くなっていたし、体力の衰えもあり、年老いた熟練医師ならではこそできる緩和ケア医療の世界を経験中である。

外科医として最盛期を少し過ぎ、管理職になったころ家庭では子供たちも家庭を持ち家を出た。そして、両親のお世話からも解放され、自由時間がかかなり増えた。若いころにはあまりできなかったゴルフを趣味にしようと考え、ゴルフレッスンもうけた。

同級生の中にも同じような考えをもつ人たちがかなりいた。その中でも突出してゴルフのできる岡田君が主体となって、ともに神戸53ゴルフ同窓会（仮称）を始めた。古い写真はおそらく2006年の初コンペ（ライオンズCC）。新しい写真は17年後の2023年10月のもの（同じCC）。みんな年を重ねたものだ。当初

は3組でも足りないくらいの希望者がいたが、最近では、体の不調で、欠席者が続出。かくいう小生も欠席がち。今後いつまで続けられるかということになり、私は共同幹事から降りた。

さあ残り少ない世界をどのように過ごすか。外科医としての最後は管理職になり、現場からは遠のいていたが、今や緩和ケア医だ。出勤し朝一番で看護師の勤務交代の申し送りに参加、ミニカンファも行き、患者の治療方針について激論を交わす。患者のbed sideに赴き、状態を把握。入院希望の患者および家族に対する緩和ケア病棟の説明を行う外来あり、新入院患者への対応など病棟業務多々ありで、勤務時間内は多忙を極める（時間外は他の医師の応援で助かっている）。が、一臨床医としてはやりがいのある仕事に楽しく従事できていると思う。頭と体が動いている限りは緩和ケア医を続け、余暇は妻とともにやっている畑仕事、旅行、ウォーキング、ギター演奏そして大学の同級生とともに少しかだけゴルフ、さらには飲んで麻雀をして楽しく過ごせている。



2006年参加者 敬称略
中馬（淳）原田、良河、斉藤、橘、佐野
押谷、岡田、小林、廣田、中馬（理）



2023年参加者 敬称略
小林、橘、濱辺、中馬（理）
岡田、中馬（淳）、廣田、佐野

支部会便り

東海支部

佐藤 好隆（平成25年卒）

2022年度（第27回）神緑会東海支部総会が、4年ぶりに2023年5月27日（土）名古屋市中区のホテルグランコート名古屋にて開催されました。まず支部長の貝淵弘三先生（S55年卒）の挨拶後、会計報告、平岩基金（神緑会東海支部会員の医学関連学会への参加・発表を支援する基金）の運用状況などの説明が行われました。今年度は深田正紀先生と深田優子先生（ともにH6年卒）が新会員として参加されました。

特別講演では、2023年4月に名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理学講座 教授として着任された深田正紀先生より、深田優子先生とともに研究をされている記憶や学習の基盤をなすシナプス伝達やシナプス可塑性の仕組みについてご講演いただきました。ヒトをヒトたらしめる最も重要な脳機能の一つである記憶がどのように形成され、その破綻がどのように疾

患へと繋がるのかを、神戸大学・奈良先端大学・名古屋大学・UCSF・国立長寿医療センター研究所・生理学研究所での思い出とともに、お聞きすることができました。また、山田玲先生（H11年卒）より北里大学医学部生理学教室 教授への着任のご報告をいただきました。懇親会では美味しい中華料理とお酒を楽しみながら、学生時代の思い出話に花を咲かせたり、各自の近況報告をしたり、非常に楽しい会となりました。

その他の出席者は、堀田明男先生（S49年卒）、溝口明先生（S55年卒）、井澤一郎先生（S60年卒）、玉山昌徳先生（S62年卒）、寺島充康先生（S62年卒）、西尾秀樹先生（H1年卒）、山本寿彦先生（H17年卒）、風間有美子先生（H19年卒）の合計13名でした。

今回の支部総会もS49年卒からH25年卒まで幅広いメンバー構成の中、密に親睦や知見を深めることができました。東海地方には神戸大学出身の先生がまだまだ多くみえるとのことでしたので、引き続き少しでも多くの先生にご参加いただけるように働きかけ、支部会を盛り上げていきたいと思います。



編集後記

このたび、神緑会ニュースレター第15巻、第1号が完成いたしましたので、送らせていただきます。ご一読の上、ご意見、ご感想等があればお知らせ頂ければ幸甚に存じます。

なお、神緑会学術誌については、令和5年度刊行予定号に寄せて既に多くの論文や原稿をご投稿いただいておりますが、追悼文のご執筆依頼作業が大幅に遅れてしまったことから、全体の編集作業がほとんど進んでおりません。これまでに原稿をお送りいただいた先生方には学術誌発刊遅延について心より

お詫び申し上げます。

今後の予定としては、さる2月12日に開催された臨時社員総会にてご報告した新たな物故会員55名についても早急に追悼文ご執筆依頼を開始するとともに、論文・各種原稿を整理した上で令和5年度39巻と令和6年度40巻の合併号として今夏に発行することを考えております。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

(広報委員会)

**神緑会
ニュースレター**
第15巻第1号

発行

一般社団法人神緑会 会長 山崎 峰夫
〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5-1 神戸大学医学部内
TEL 078-361-0616 FAX 078-361-0617
sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

印刷

小野高速印刷株式会社
〒670-0933 姫路市平野町62番地
TEL 079-281-0008 FAX 079-223-3523
URL: <https://www.ohp.co.jp/>
<http://www.dousou.info/>

100%
手作りの
お世話®



成婚率の高さが決め手!!
コンピューターを使わず、すべて手づくり100%の
誠実なマンツーマンシステムです。また、ご家庭環境、
お人柄等バランスのとれたご提案により、無駄のない
ご紹介を実施しています。

結婚物語 前略…

前略 この度は息子が大変お世話になりました。お蔭様でやっと家庭を持つことができ、遅ればせながら息子も一人前になった感じがいたします。と同時に私の子育ても愈々終わ리と思うと、一抹の淋しさも否めません。本当はもっと早く親… ➡ 続きはWebで [エムロード結婚](#)

Marriage Road® 結婚

エムロードはここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 自社会員のための構成
- 4 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 5 格式あるお見合いパーティー



資料請求・お申し込み・お問い合わせ

(株)エムロード



0120-4122-46

(10:00~18:00 / 水曜定休)

大阪本社 〒530-0043 大阪府大阪市北区天満 3-2-2 エムロードビル 3F

資料
請求

- エグゼクティブコース
- ドクターズコース
- スタンダードコース
- シニアズコース

エムロード 結婚

検索

神戸 神戸国際会館 22F 京都 オフィス・ワン四条烏丸6F 東京 丸の内トラストタワー本館 20F



「福利厚生施設・写真撮影」 長谷川 健太